

令和3年度 兵庫県立有馬高等学校 学校評価 (自己評価)

十分にできた 4 できた 3 できていない 2 見直しが必要 1

年度努力事項			
目標	①知識・技能の習得を通して、生徒が自ら主体的・対話的に仲間と協力しながら、課題を解決していこうとする積極性を醸成する。 ②生徒の実態やニーズを踏まえた教育課程の編成及び運用の創意工夫に取り組み、生徒一人一人の夢を実現する魅力ある学校づくりを推進する。		
担当	取り組みとその成果 ②をいれています	成果と課題	評価
総合学科	生徒の進路目標や興味関心に応じた科目選択ができるように教育課程の編成に携わり、外部講師や体験的授業を効果的に取り入れ生徒の将来の目標の達成につなげる。	1年次の「産業社会と人間」では、コロナ禍ではあったが上級学校訪問の訪問大学を新規開拓し、制限がある中、実施にたどりつけた。「インタビュー講座」や「小論文講座」では、ZOOMを使った授業を実施し、感染対策を徹底した。1年次の3月には、次年度の「総合的な探究の時間」の導入に向け、大学教授による講演会を実施した。また、2年次生対象に「総合的な探究の時間」で大学教授による探究の基礎についての講演会や、三田市役所職員による地域の身近な課題についての講演会を開いた。	4
農業	有馬高校人と自然科でしか学ぶことのできない「人と自然」「ナチュラルキープ」「地域自然保護」などの学校設定科目をさらに充実させ、生徒の進路実現につなげる。	コロナ渦の中でも、「人と自然」ではひとく連携セミナーを年間7回実施、「地域自然保護」もありまふじ公開セミナーを計画通り実施し、大きな学習成果を得た。また地域から受講生を募集し共同授業を行う「クラインガルテン」フローラルアートも2年ぶりに実施した。活動の継続が今後の課題である。	4
教務	生徒の興味関心に応じた魅力ある選択授業や、生徒の到達度や進路希望に合わせた習熟度別や少人数の授業を数多く展開する。	・令和4年度入学生の教育課程について、2つの学科それぞれの特色に基づき、進路実現や魅力のある科目の選択を可能にした教育課程を検討した。生徒の実態をふまえ、現行の講座を見直し、新たな学校設定科目の設置等も方向性を決定した。 ・令和4年度開講科目については、現状の生徒・職員の定数も勘案しながら、興味関心に応じた選択授業や少人数授業など、できる限り多くの講座が開講できるよう考えた。	4
進路指導	進路希望調査、進路相談、進路講座の振り返り、学習状況分析などを行い、それらの結果を教員間で共有し、多面的に進路アドバイスや科目選択アドバイスを実施する。	学年と連携をはかりながら計画以上に実施できた。学年との指導検討会だけに留まることなく、それを踏まえた日々の学年団との連携や、あらゆるデータの分析、方針立案、声かけなどにより、高い進路実績もさることながら、目標を持って最後までがんばる主体的な進路実現の姿を醸成することができた。また新たに、早期からの進路意識の芽生えを目的に、校内外の講師による進路講座やその振り返りを実施した。教員の業務負担に対する多様な見方の整理が課題である。	4
総務・広報	人権・国際理解・防災等の教育活動や芸術鑑賞会等の行事を、特別教育活動の中で適切に実施する。	国際交流については、昨年と同様にリモートでの交流を実施した。現時点での最善の実施形態であり、適切に実施できた。次年度も関係部署との連携の更に強化していくことが必要である。 芸術鑑賞については、今年度より3年生の校外行事(宝塚歌劇鑑賞)として実施し、生徒には大変好評であった。	4
保健・相談	専門家による講演会を実施し、注意すべき健康問題を知り生徒自身が危険を予測し、正しく安全な行動がとれるようにする。	熱中症対策に向けた外部講師による講演会を計画したものの、新型コロナウイルス感染拡大防止の制約により今年も中止になった。2年生対象の「薬物乱用防止講演会」と1年生対象の「性教育講演会」は予定通り行うことができ、講演会終了後のアンケートの結果についても好評で、危険を未然に防ぐことへの関心を高めることができた。	4
生徒指導	生徒情報交換会などで、生徒の実態把握をするとともに、挨拶や時間厳守、マナーなど規律ある行動ができるようにする。	生徒情報交換会を月に2～3回行うことにより、生徒の情報を共有するだけでなく、全学年共通理解の元、指導することができた。また、学年からの要望や意見も取り入れやすく、臨機応変に対応できたと思われる。挨拶をする生徒も増え、遅刻する生徒も減ってきている。	4
1年	年間を通して補習や学習会を実施し学力の向上を目指す。また成績不審者に対しては補充・特別課題等により学習意欲を喚起する。	夏休み補習、模試事前学習会を行い、発展的な学力を身につけさせた。定期考査前には質問会・補充を行い、理解を深め学習意欲の喚起を図ることができた。マナビジョン(進研模試デジタルサービス)や動画発信し、自宅でも学習できる指導を行った。	3
2年	進路実現に向け、具体手な目標を立てる支援を行う。	朝のSHR時の漢字小テストや英単語小テスト、授業中の確認テスト、定期考査前後の補充授業の実施により基本的な学力の定着に務めた。また、早朝・放課後・長期休業中の補習により発展的な学習を進め、実力を養成した。進路指導部と連携して進路講演会・進路別ガイダンスを開くことで、専門的な情報を提供し進路目標の実現に向けて具体的な道筋を示すことで進路意識を高めた。新3年では、個々人の進路目標実現にきめ細かな指導をしていきたい。	4
3年	生徒の希望する進路に応じたガイダンスの実施や、積極的な面談を実施する。	進路指導部と連携し、進路ガイダンスの定期的な実施及び、各担任と進路指導部とが密に相談しながら、個別対応を丁寧に行うことができた。	4

年度努力事項	(2)すべての教育活動を通じた「こころ豊かで自立する人づくり」の推進
目標	①特色学科の利点を生かした教育活動を推進し、夢や志を抱き自らの未来への道を切り拓く力を育てると共に、自己表現を目指した 生き方・在り方を考えるキャリア教育を充実する。 ②人間的なふれあいに基づいた教育活動を推進し、社会性や自主性・自立性の育成に努める。 ③国際理解教育や個性を尊重する多様で柔軟な教育を推進し、命や人権を大切にシグロバールな視野を備えた、ともに生きる社会づくりに貢献できる人材を育成する。

担当	具体的取り組み(計画) ②をいれています	成果と課題	評価
総合学科	コミュニケーショントレーニングやインタビュー活動の実践、各種発表会の実施を通して、主体性や協働性を育む。	本年度は、1年次4月に「アンガーマネジメント講座」を開催し、入学当初の円滑なコミュニケーションを図ることを目指した。「2分間スピーチ発表会」や「探究基礎講座学年発表会」、「課題研究発表会」については、それぞれの性質に応じた発表ツールを駆使しての実施ができ、生徒のプレゼンテーション能力向上はめざましいものがあった。学習活動発表会は、学年閉鎖や学級閉鎖のため延期、オンラインでの実施となるが、今後は発表形態についてもさらなる柔軟な対応が望まれる。	4
農業	授業で学んだ知識や技術、そして自ら栽培した農産物などを活用し、福祉施設の花壇装飾交流や田植え稲刈り交流などを企画、実施し社会性を向上させる。	コロナ禍の中でも、まちなみガーデンショーなどイベントでの作庭、市役所花時計や消防署など公共施設花壇装飾を行い、地域に学びを還元できた。また、1年生の農業と環境では北摂第一幼稚園とのスイートコーン収穫交流が復活した。来年度からは北神戸田園スポーツセンターのイベントにおいて、販売、作庭活動をスタートさせたい。	4
教務	学習環境の整備・授業規律等の目線を合わせて指導する。「有高手帳」を活用し、学習計画や課題内容、提出物の期日確認など、自己管理ができるように働きかける。教育クラウドサービスの効果的な活用方法等について教員の授業力向上を図る。	・会議や打ち合わせ等で教務上の確認事項等の共通理解を深め、学校全体で学習環境や授業規律を意識した上での学習指導を行った。 ・有高手帳を全校生徒が持ち、学習計画や提出物の確認などを中心に各自のスケジュール管理をおこなった。Google WorkspaceやClassiをはじめとする教育クラウドサービスを通じて学校と家庭学習の連携を図り、また夏・冬に校内研修会を実施するなど、効果的な学習の検討を進めた。	4
進路指導	インターンシップ、看護医療現場体験、オープンキャンパス、企業見学などへの参加を学年と協力して推進し、校外での体験を通して、社会性や自主性・自立性の育成を図る。	コロナ禍、積極的な案内を見合わせつつも、希望者に対しては細心の注意を払いながら参加をサポートした。企業、病院、大学、専門学校からの受入中止や参加予定者のコロナ不安によるキャンセル等により制限されることもあったが、オンラインでの実施を案内したりサポートしたりし、できる範囲で実施した。コロナ禍の落ち着きにより積極的な参加を後押ししたい。	3
総務・広報	人権HRや校内避難訓練、それに伴う講演会や常置委員会活動(図書委員会・清掃委員会)などを適切に実施する。	各種の委員会活動は生徒会役員を中心に適切に計画・実施できた。 人権講演会はZoom配信を各教室で視聴する形態で実施した。避難訓練は感染対策を考慮したうえで実施した。次年度以降も状況を鑑みた質の高い実施を心掛けたい。	3
保健・相談	職員カウンセリングマインド研修会を実施し、生徒の心の健康に目を向け、不適応生徒の早期把握につとめ職員の資質の向上に努める。	本校キャンパスカウンセラーによる研修会を8月(「解離性障害」について学ぶ)と12月(ヤングケアラーが抱える問題)に開催した。12月に開催した研修会は教員側の要望にこたえる内容にすることができた。しかし研修会を行いたい時期は他の部署による予定も詰まっていたため、結果的に空いた日に予定を組まざるを得なくなり、参加人数が非常に少なくなった。今後は研修への参加が全教員に要されることを、早い段階で周知するよう取り組みたい。	2
生徒指導	生徒会・育友会・常置委員会・定時制などとの交流を計画的に実施し、ブログにあげる。	コロナ禍で当初の計画を変更しなければならないことが多々あり、苦勞したが、各部署うまく連携したり協力し合い、何とか行事を無事に終えることができた。生徒会や常置委員会では、生徒自ら意見を出し合い、率先して動くことができた。ブログにあげることはあまりできなかった。	3
1年	あいさつ・清掃活動・集団生活に必要なルールの順守等の基本的な生活習慣を身につけさせ、責任ある行動がとれるようにする。	あいさつの励行、清掃活動の実施、時間厳守等の集団生活上のルールの遵守を指導した。基本的な生活習慣がおおむね定着したと思われる。学年を通して遅刻指導を行うなど今後も継続する予定である。	3
2年	周囲に目を配り、常に美しい環境づくりに励ませる。	コロナ禍で当初計画していた沖縄方面への修学旅行を変更しなければならなかったのは残念だったが、1月に関西方面への修学旅行を実施して成果をあげることができた。修学旅行という場で新しい体験を積むことで、生徒自身の成長を促し、生徒間の信頼関係を深めることにつながった。修学旅行運営委員が、学年企画を盛り上げ、生徒同士の親睦を深め学年としての絆を強めることに貢献した。新3年では後輩の模範となれるよう心の成長と充実を促していきたい。	4
3年	早朝・放課後や長期休業中に補習を実施する。アドバンスクラスに限らず多くの生徒に対して補習の機会を増やし、進路実現に結びつける。	進路実現に向けて、早朝・放課後・長期休業中の補習を計画的に行い、各教科において学力の定着を図った。生徒も積極的に参加する者が多く、目標を達成できた。	4

年度努力事項	(3)地域に信頼される学校づくりの推進	
目標	①情報を積極的に提供することで学校としての説明責任を果たし、保護者や地域に信頼される学校づくりを推進する。 ②保護者との共通理解を図り、家庭と学校との連携を密にし、生徒一人ひとりの成長を支援する。 ③勤務の適正化を通して職員の働き方改革を推し進め、関わる全ての者にとって風通しの良い環境づくりを推進する。	

担当	具体的取り組み(計画)	成果と課題	評価
総合学科	授業や各種発表会の公開、科目選択の説明会等を通して、保護者との共通理解を図るとともに生徒の成長を見守る機会を確保する。	コロナ禍のため、発表会等の校外への公開はできなかったが、1年次「産業社会と人間」では、毎授業後にブログをアップし、情報公開に努めた。科目選択説明会は予定通り実施し、保護者との共通理解を図る機会ができた。「小高連携授業」は、感染対策を徹底した中での開催となり、地域小学校との安定した交流ができた。今後は感染状況に応じた交流のあり方についても模索する必要がある。	3
農業	特色ある学びや資格取得など、人と自然科の強みを卒業時の進路実現に活かすため担任(学年)に加え農業部職員も電話相談や保護者面談などで積極的に家庭と情報交換を行う。	例年以上に資格に挑戦する生徒が増え、ビジネス文章実務検定試験3級では過去10年間で最も高い合格率となった。さらに国家資格であるフラワー装飾技能士2級、造園施工技術者3級においても5年ぶりに合格者が出た。これらの活かした進路指導の結果、国公立大学1名を含む10名の生徒が農業系の学校に進学した。農業部職員と担任との連携(情報共有)に課題が残った。	3
教務	生徒の学習活動・学習成果について、教科・学年・専門部と連携しながら保護者との共通理解を図り、学校生活の充実と進路実現ができるよう支援する。	・教科・学年・専門部と連携しながら生徒の学習評価や科目の選択などについて、生徒・保護者と連絡を密にし共通理解を図っていくことができた。 ・欠席の多い生徒に対して、学力保障の観点から個々に応じた適切な指導を行うよう、教員の共通理解を図り、全体の調整を行った。	3
進路指導	保護者向け進学・就職説明会を実施したり、生徒向け進路講演会への保護者の参加を案内したりし、進路に対する保護者との共通理解に努める。	コロナ禍の中細心の注意を払いながら、保護者向け進学・就職説明会を学年と協力して実施し、多くの参加を得た。また、生徒向けの進路講演会に保護者の参加を募るなどの新たな試みを実施した。コロナ禍の落ち着きにより、さらに積極的に参加を募っていきたい。	3
総務・広報	育友会主催行事への職員出席や、学校主催行事への育友会・清陵会役員の協力等や、育友会報やクラブ後援会報の発刊などを関係機関と連携して適切に実施する。	育友会報・クラブ後援会報は、それぞれの団体の協力のもと発行した。育友会・清陵会の各種会議については必要最小限にとどまった。次年度も人的交流のあり方について工夫しながら実施したい。	3
保健・相談	健康診断後の事後措置として受診を指示された生徒について、保護者との連絡を密にして受診率の向上に努め病気予防の意識を高める。	健康診断後の再受診を指示された生徒については、再受診が終わるまでに要する日数はしばらくかかるが、保健室(学校・担任)から家庭へのこまめな呼びかけが行えたことで、ほぼ全員が再受診を終えることができた。	4
生徒指導	生徒会目安箱の生徒の情報を有効に活用し、HP・ブログを通して共通理解を図る。	生徒や教師の意見を基に、完全夏服・冬服期間の廃止、指定靴の見直し、土日休日の部活動で登校する際の服装の柔軟化、行事の内容の見直しなど、生徒がその時の状況に応じて柔軟に対応できるような見直しをした。校則や守って欲しいこと	4
1年	保護者会や三者面談等の機会を通して、学年団と保護者のコミュニケーションを密にして、生徒理解を深めていく。	7月に総合学科科目選択説明会を実施し、夏休みの三者面談や家庭への電話連絡等必要に応じて保護者との連携を密にして生徒を指導できた。	4
2年	積極的に保護者と情報交換を行い、互いに話しやすい環境を整えていく。	コロナ禍でいつ臨時休校・学年学級閉鎖となるかもしれないので緊急連絡網の整備に務めた。有高ブログ、Google Classroom、Classilにより生徒と担任が確実に連絡がとれるようになった。(ネット環境のない生徒には担任から電話連絡をしている。)年間を通して、全体保護者会(2回)、三者面談、個別相談、電話による家庭連絡等を行い、生徒の状況の把握と保護者とのコミュニケーションに務めた。	3
3年	学年通信を定期的に発行し、学校や学年活動の情報を積極的に発信することで、生徒や保護者との連携を深める。	学年通信を定期的に発行することができなかったが、進路からの情報発信と担任の面談等の個別対応でおおむね連携は図れた。	3